

■ スズメバチのおはなし ■

すっかり涼しさが増し、快適なトレッキングを楽しめるシーズンがやってきました。そんななか、スズメバチの姿も多く見られるようになりました。刺されないようにするためには、どうすればよいのでしょうか。

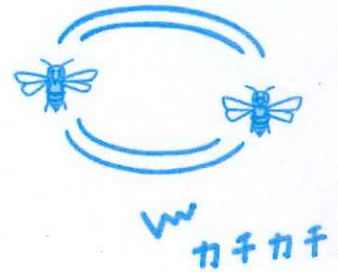
夏から秋にかけて凶暴になるといわれるスズメバチですが、それは生殖能力のある新しい女王バチと雄バチの育成が始まる大切な時期であるために、巣を守る働きバチたちが敏感になるからです。



一番怖いのは知らないうちに巣やスズメバチそのものに近づき、素早く動くなど、誤って刺激してしまった場合です。飛んでいる姿を見たら、近くに巣がないか注意して歩いたり、むやみやたらに茂みに入ったりしないことが重要です。突いたり手で追い払ったりすることはもってのほかです。また、巣に近づくと、じっとしていても敵とみなされることがあります。大顎でカチカチと音を鳴らしたり、左右に円弧を描いて飛んだりする警告行動が見られたら、ゆっくりと後退するようにしましょう（この警告行動を無視すると刺されます）。

スズメバチは、黒色の動くものに強い反応を示すともいわれています。黒い服は避け、明るめの色の帽子を被って頭部を隠すことが効果的です。さらに、香水や化粧品、整髪料などのおいにも敏感に反応して近寄ってくる場合がありますので、山歩きの際には、使用を控えることをおすすめします。

スズメバチにとって、刺すというのは防衛行動であり、基本的には「当たらぬ蜂には刺されぬ」です。近づいてしまったり、刺激してしまったりする要素をあらかじめ少なくし、自分のためにも、スズメバチへの思いやりを持ってトレッキングを楽しみましょう。



■ こんなの見なかった？ ■

裏磐梯でよく見かける不思議なもの…さて、なんでしょう？

これからの裏磐梯の楽しみは何といっても紅葉でしょう。しかし、楽しみは紅葉だけではありません。裏磐梯ビジターセンターの近くにある東園地を歩いてみると、茶色で長い物体が目につきます。

さて、これは何でしょうか？

- ①フランクフルト
- ②ショウブの花
- ③ガマの穂
- ④ソーセージ

正解は③で、「ガマの穂」と呼ばれているものです。ガマは川岸、池や沼などに群生する高さ1.5～2mの大型の多年草です。ガマの穂と呼ばれる円柱形の花序が特徴です。雌雄同株で、茎の先に雄花穂、その下に雌花穂がつきます。花は小さく、雄花も雌花も基部に長い毛があります。写真では、雄花穂は枯れ、雌花穂はいわゆるガマの穂になっています。



「古事記」には、「因幡のシロウサギ」の神話がありますが、その中で、大国主命（おおくにぬしのみこと）がサメに毛をむしられたシロウサギの赤い肌を治すのに、ガマの穂綿を使って治したということが書いてあります。当時の人々が、薬草を使っていろいろな病気やケガの治療を行っていたことを知る重要な手掛かりになっています。実際に、火傷、利尿、止血などの薬効があります。



また、「ガマ」に関することとして蒲焼（かばやき）があります。土用の丑の日には、ウナギの蒲焼を食べますが、昔はウナギをぶつ切りにして、串焼きにしました。その形がガマの穂に似ているので、蒲焼と呼ばれるようになったともいわれています。